佐伯市軟式野球連盟学童部　取り決め事項

※令和４年３月１７日現在

１．抽選会等には定時に出席のこと。（欠席のチームは原則として棄権とみなす。）
２．チーム登録は、１チーム１０名以上の選手登録が必要とし、試合当日の整列時に１０名の選手がいなければ棄権しなければならない。（ただし、新人大会の時は９名でも出場可能とする。）
３．雨天時の大会開催決定等は、当日の第１試合開始時間の２時間前とし、各チームの代表者又は監督に事務局から連絡する。
４．抽選番号の若番を１塁側とし、試合開始予定時間の 30 分前に集合すること。
５．オーダー表は２部提出する。（それぞれのチームで所有する複写式のオーダー用紙でよい。）オーダー交換は、第１試合目は開始予定時刻の４０分前に、監督と主将がオーダー用紙を持って本部に集合すること。第２試合目以降は、前試合の４回終了時に行う。（県大会と同じく、ユニフォーム着用とする。試合球２球を持参すること。）※アナウンスされる球場の場合は、３部提出して下さい。
６．捕手は連盟公認のＳＧマークの付いたマスク（スロートガード付き）、ヘルメット、レガース、プロテクターを着用すること。また、ファウルカップも着用すること。打者・走者ベースコーチはヘルメットを着用のこと。正捕手がプロテクターを装着している時に投球を受ける代わりの選手も、必ずマスクを着用すること。また、野手のグローブヒモは短めにしておくこと。
７．ゲームは全て６回とし、雨天時の場合４回終了時で正式試合になる。ただし、先攻のチームが負けている状態で４回表を終了し、４回裏の途中で雨天中断となった場合は４回終了とみなす。※決勝戦は、雨天によるコールドゲームは適用しない。
８．延長戦は行わず、特別延長戦（０アウト１，２塁、継続打者）とし、勝敗が決まるまで実施する。
９．試合開始後９０分を経過した場合は、新しい回に入らない。（ただし、決勝戦は適用しない。）
10. コールドゲームは、３回以降 15 点差、５回以降７点差とする。（決勝戦も適用する。）
11. 雷対策として木製バットの準備は必要がない。ただし使用するのは自由である。
12. 相手チームや審判員に対する聞き苦しいヤジは厳禁とし、自チーム側の応援団のヤジもチームが責任をとる。また、チームの応援は自チームが攻撃の時を基本とし、相手が攻撃の時は控える。特に、投手が投球動作に入ったら応援は止めること。投手の動揺を誘うような声を発しない。（※楽器を使用した応援は禁止とし、ベンチ内で使用するメガホンは１つまでとする。）
13. グラウンド整備は試合をした両チームの「選手」で実施すること。（ただし、マウンドやホームベース付近など、選手が上手に整備できないようであれば、大人が補助してもよい。）また、各チームともゴミ袋を用意し、ゴミは必ず持ち帰ること。（トイレットペーパーも準備すること。）最終試合の両チームは、道具類の収納とダッグアウト及び応援席の清掃を行うこと。
14. 塁審は、監督またはコーチがするものとし、チームの事情により保護者等が塁審をする場合は、ジャージではなくユニフォーム姿で行うこと。（試合前に球審との打合せをするので、開始５分前には集合すること。）
    指導者が「球審」を実施する場合は、両チームから審判員を２名ずつ選出し、抽選番号の若いチームが先に初回の表・裏の球審を行い、その後は交互に実施する。
    また、塁審は試合時間を計測するため、ストップウォッチを必ず持参すること。（試合の経過時間及び終了予定時間を、球審と両チームに周知するため、試合終了時間の約 10 分前にはその回が始まる前までに、球審と両チームに経過時間を報告に行くこと。また、後攻のチームが勝っている状態で９０分が経過した場合、塁審はすぐタイムを取り、球審に時間が経過したことを伝えて、試合を終了させること。）
15. 指導者のサングラスについては、原則禁止とする。（帽子にかけるのも禁止。）また、選手の守備・打者用手袋の着用については規制をしない。（ただし、色は黒か白の１色とする。※県連規定と同じ。）
16. ベンチに入れる人員は、選手は 20 名までとし、大人は、監督・コーチ２名・トレーナー（有資格者）１名・チーム代表者１名・引率責任者１名・スコアラー１名の合計７名までとする。また、インプレイ中はベンチの外に出て応援等をしないこと。（ベンチ内での写真撮影等は禁止する。ベンチ内への電子機器類（携帯電話、パソコン等）の使用を禁止するが、電子スコア記録用として１台の使用を認める。）
17. 試合中にベンチ前でキャッチボールできる人数は２人までとし、選手のみとする。また、素振りができる場所はネクスト・バッタースボックスのみで、ボックス内では投球が始まったら腰を下ろす

こと。（ボックスには、素振り用リングやマスコットバットは持ち込まないこと。相手チームの投手が投球練習をしている時に、選手がベンチを出て一斉に素振りすることも禁止。）試合中に次の試合をするチームの投手が、投球練習をするためにグラウンド内に入ることを禁止します。

18. 審判団へのお茶の差入れについては、２回裏終了後と４回裏終了後に届けること。（球審及び１塁塁審は１塁側チームから、３塁塁審については３塁側チームが用意する。）
19. ライン引きについては、試合をする両チームで行い、特に第１試合目については事前に塁間等の距離を把握したうえで、開始１時間前から２名を選出し、４名で協力して実施すること。
20. 審判員の休憩時間を確保するためにも、試合に勝利したチームの指導者は、試合後すぐに次の試合の両チームの監督を集め、試合開始時間を決めること。（球場責任者がいる場合も同様とする。）
21. 投球練習中に行う内外野でのボール回しについては、試合の進行を早めるためにも最後の投球数になったら速やかにボールをベンチに返すこと。また、練習中は投手の邪魔にならないように気をつけること。（特に三塁手は捕手側ではなく、遊撃手側で練習すること。）バッターは危険なのでダートサークル（振り逃げのライン：半径３．３ｍ）の外側で待機しておくこと。
22. タイム（※作戦タイム）の回数は、守備・攻撃でそれぞれ３回までとする。
    守備側のカウント：監督（または監督の指示を受けた野手）が、タイムを取ってマウンドへ行く場合。また、内野手（捕手を含む）が２人以上マウンドに集まった場合。
    攻撃側のカウント：監督（または監督の指示を受けた野手）が、打者及び走者に対して指示する場合。
23. コーチ・チーム代表者・トレーナー・引率責任者・スコアラーの服装について、コーチは背番号 28・29 番のユニフォームとし、その他の保護者はスポーツ行事にふさわしい格好であること。（短パン・スリッパ等は禁止とする。）
    ※県大会では、監督とコーチを明確にさせるために、ベンチ内の保護者はユニフォームを着てはいけないとされており、監督とコーチのズボンについては、ロングパンツ禁止とされています。
24. 試合前の練習時に球場内に入って練習に参加できる大人は、背番号をつけた監督・コーチの３名のみ。 ただし、監督とコーチが不在の場合は、保護者がその代理として練習を手伝うことはできる。
25. インフルエンザ等の流行によって、そのチームが大会に参加できない場合（選手が１０名以下となった場合）は、日程の延期申請をすることができる。ただし、流行の判断基準として、学校での「学級閉鎖」が発生した場合のみとする。なお、延期申請ができる期日は、「大会初日」の３日前の午後５時までとする。また、延期申請をしたチームは、その後練習の自粛を求める。
    （例：大会初日が日曜日の場合、申請の締め切りは木曜日の午後５時まで。）
26. 大会期日と学校行事（授業参観等）及び地区行事（神社の祭りで選手が動員される場合等）が重なった場合は、日程の調整を申請することができる。また、市が主催する行事に限り、指導者全員が動員され、保護者だけでは采配が不可能な場合のみ調整の申請を認める。
27. 試合中は、常に選手の安全を考慮すること。特に、守備の面では、極端な前進守備をさせないこと。（全軟連より「塁間の半分を目安とする」と明記されています。）また、指導者として安全配慮義務・注意義務の観点から、負傷していることが明らかにわかる状態、例えば骨折等によりギプス・シーネをしている選手については、試合に出場させてはならない。（ランナーコーチもさせないこと。）
28. 投手の投球制限については、選手の肘、肩の障害予防として下記の取り扱いとする。
    ①１人の投手は、１日の投球できる数を下記のとおりとする。
    学童部７０球以内（４年生以下６０球以内）
    ②試合中に７０球に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。
    ③ボークにもかかわらず投球したものは、球数に数える。
    ④タイブレークになった場合、１日７０球制限内で投球できる。
    ⑤牽制球や送球とみなされるものは投球数としない。
    ⑥投球数の管理は、大会本部で行うので各チームも協力すること。
    ⑦ダブルヘッダーの場合、必ず投手の投球数の報告を行うものとし、違反した場合は処分を行う。
29. 規則上、特に注意すべき事項として、「かくし球」や作為的な「空タッグ」は厳禁とする。また、盗塁を助けるために、捕手の送球直前のスイングや、バントの構えからわざと捕手側にバットを引いて、打者席から捕手の前に出る行為も禁止とする。
30. 投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には「12 秒以内」、走者がいる場合には「20 秒以内」に投球しなければならない。違反した場合、走者が塁にいない場合は、ただちにボールを宣告し、走者がいる場合は警告を発することとし、同一投手が２度繰り返したら、３度目からはその都度「ボール」を宣告する。